



笑顔！笑顔！笑顔！ 学校だより

平戸市立山田小学校 校長 松尾 一 知
NO. 10 令和元年 6月10日 発行

市少年の主張大会 6年出口奈知さん 最優秀賞受賞！！ おめでとうございます

9日（日）に、平戸市文化ホールで平戸市少年の主張大会が行われました。各小中学校1名ずつの代表が発表し、本校代表の出口奈知さんが小学生の部で最優秀賞を受賞しました。それぞれがよい発表をする中、奈知さんは、自らの体験をもとに、自ら調べ、解決策を考えた発表内容を、声のメリハリをつけながら、会場を見渡す余裕をもち、訴えかける強い目の力、言葉と調和した身振り手振りをつけるなど、豊かな表現力で堂々と発表し、NO. 1の賞に輝きました。また、発表前の呼名の返事や礼なども1番と云っていいほどすばらしかったです。奈知さんの表現力を目や耳で実際に感じてほしいのですが、動画とはいきません。以下の発表文を読んでいただき、そのすばらしさを感じてほしいと思います。

『やさしさと事故0目指そう ふるさと平戸』

山田小学校 6年 出口 奈知

「危ない。」「キキィー。」辺りに響くブレーキ音。道路に飛び出した私は、もう少しで車にひかれそうになりました。それまで、事故と聞いても、どこか他人事で、自分が事故にあいそうになるとは夢にも思っていませんでした。しかし、この日を境に、事故は身近でも起こりうるものだと思われ刻まれました。

また、全国的に見ても、最近起こった車同士の追突事故で歩行者がまきぞえになって、二人の園児が亡くなるという悲しい事故が私の心を落ちこませました。数年前には、平戸市でも小学生が亡くなる事故が起き、平戸市全体が悲しみに包まれました。

これらのことから、交通死亡事故を少しでもなくしたいと強く思うようになりました。

そこで、事故の原因について予想してみました。私は、高齢者の運転ミスや子供の飛び出しが原因ではないかと思いました。そのことを確かめるために平戸警察署に電話でたずねてみました。そこで分かったのは、昨年1年間で、平戸市内で54件の事故が発生し、一人の方が亡くなって、78名の方がけがをされたということでした。また、事故全体の原因のほとんどが、わき見・ぼんやり運転でした。予想していた高齢者の事故は全体の約半分ほどで、予想とは大きく違っていました。話を聞いて驚いたことの一つ目は、事故件数よりもけがをした人の人数が多いということです。二つ目は、事故の原因の多くが、予想していた子供の飛び出しではなく、わき見・ぼんやり運転だったことです。

これらの事故についての話から、交通死亡事故を無くすための対策を考えてみました。

わき見・ぼんやり運転と聞いて思いつくのが、運転中に携帯やスマホを見ている人が多いことです。そこで考えた一つ目の対策は、車のエンジンがかかると、自動的に電源が切れるスマホや携帯を開発することです。技術が進んだ今ならば、エンジンの電波や振動を感知して、電源が切れる装置の開発はできるはずです。

また、事故件数よりもけがをした人の人数が多いということから、歩行者が巻きこまれる事故が増えているのではないかと思います。そこで二つ目の対策として考えたのが、仮に歩行者が事故に巻きこまれそうになっても、歩行者を守るためのガードレールを多く設置することです。平戸市内を車で通っていると低い縁石が多く、もしも車が乗り上げてきたら、歩行者を守れないのではないかと思います。それを、より安全なガードレールに変えていくことによって、守られる命も多いのではないのでしょうか。

ここまで、携帯、車会社や役所に対しての期待をこめた対策を述べてきました。しかし、いくら機械や設備に頼ろうと、最後に人々の命を守るのは、私達一人一人がもつ他人への思いやりや優しさであってほしいと思うのです。先日、地域の方々や警察の方々がお交差点に立ち、車を運転している人に、安全運転を呼びかけるティッシュを配っていらっしゃるのを見かけました。それを見てると、何だか心が温かくなりました。そのような思いやりを再認識させる地道な取組こそが最も大切で強力な対策だと気づきました。私たち一人一人がもつ、相手に対する思いやりや優しさと呼び起こし、交通事故のない平戸市をつくっていきましょう。

「やさしさと事故0目指そう ふるさと平戸！」

山田小安心メール 現在50名登録済み(教職員含む)

6月3日付の文書で14日（金）までにお願ひしておりました山田小安心メールの登録についてですが、6月7日までに教職員を含めて50名の方に御登録いただいています。登録するのを忘れていた方、登録を御検討いただいている方は、ぜひ登録手続きをお願いします。なお、登録方法記載のたよりを紛失された方は、学校まで御連絡ください。再度、文書をお渡しします。